

あかいら

No.364



2019.3

岩手県勤労者山岳連盟



盛岡山友会



今後の日程(4/1～5/6)

日付	曜日	行事	日付	曜日	行事
4/1	月		19	金	
2	火		20	土	▲八幡平(銀世界)
3	水	◎第33回定期総会(勤労福祉会館)	21	日	☆県連雪山交流山行(焼石岳)
4	木		22	月	
5	金		23	火	
6	土		24	水	◎4月例会(勤労福祉会館)18:45～
7	日	▲岩手山(銀世界)	25	木	▲女助山、男助山(ウィーク)
8	月		26	金	
9	火	◎運営委員会(杜陵老人福祉センター)18:45～	27	土	▲須川温泉～大薮山～P1112(県境)
10	水		28	日	
11	木		29	月	
12	金		30	火	
13	土	▲焼石岳(銀世界)	5/1	水	
14	日	▲万寿山(ゆうゆう) ▲万寿山、六郎山(名山)	2	木	
15	月		3	金	
16	火	☆県連理事会	4	土	
17	水		5	日	
18	木		6	月	

原稿のお願い

4月号の原稿締切り

◎ 4月6日(土)

※手書き原稿の場合は、2日前迄とします。

原稿の基準

■サイズ:A4 山行報告は必ず1ページまたは2ページで作成をお願いします。

■本文枠:幅17cm・縦25cm または 余白:上・下25mm 左・右20mm

■本文のフォント:10～12ポイント、明朝体、またはゴシック体で

※編集作業中に文字化けする可能性がありますので、フォントは守ってください。

☆「かわら版」の原稿募集中!メール(原稿)のタイトルは「かわら版原稿」で送ってください☆

□送り先 ◎手書き原稿(郵送)

会員No. 357 渡部 彩子

〒020-0632 滝沢市牧野林 1047-66 TEL 090-7528-1968

◎メール原稿

会員No. 301 久保 加世子

メールアドレス k-kubo@mba.nifty.ne.jp

2018年12月1日、県連主催の第35回岩手県登山者自然保護集會に参加しました。早池峰山のトイレ問題とシカ問題の話をお聞きすることができました。どちらもいろいろ考えさせられる内容でした。紙面をお借りしてシカ問題について講演の内容をご紹介しますと思います。

講師は、岩手県立博物館専門学芸員の鈴木まほろ氏でした。2015年度の岩手県のニホンジカによる被害は、農業被害約2億円、林業被害87万円と推計されていますが、生態系の変化による影響が一番大きいと考えられています。生態系への悪影響として、山菜、蜂蜜、野生動物、生物多様性の喪失、水質低下、土砂災害、景観悪化等様々なことが考えられます。被害額は算出困難な巨額になるものと考えられます。

早池峰山麓において、ニホンジカ増加によりナンブトウウチソウ、ナンブイヌナズナなどの希少植物の食痕が確認されており、その対策が検討されています。対策として、①防護柵を設置、②シカの捕獲強化、③シカの増加を抑制などが行われています。また、以下の登山者にできることもあります。

- 1) シカを目撃情報の報告（岩手県へ）
- 2) シカの食痕、糞などの目撃情報報告（岩手県へ）
- 3) 柵設置作業のボランティア
- 4) 柵や調査用カメラの購入費の寄付
- 5) 定点撮影のすすめ

自然保護部では、1月にシカを目撃情報のアンケート調査（岩手県）に協力しましたが、1)、2)の目撃情報を随時岩手県に報告したいと考えています。会員の皆様で、目撃された場合は自然保護部に一報頂きたいと思えます。

ここで、余談。古来、青森以南にはニホンジカが広く生息していたようです。19世紀後半の「人間」の乱獲により生息数が激減したのが、20世紀後半からの「人間」の保護政策により個体数が「回復」基調にあるということのようです。シカからすると、「人間」がシカの本来の生息域を開発したのでやむを得ず厳しい環境の高い山で生きているのだ、それを「生態系保護」、「駆除」だのなんだのとナント勝手なものだと思っているかもしれません。「人類」が絶滅に追いやった動植物は数知れず、生態系を一番破壊しているのは「人類」という話もあります。ほんとうに自然と共生するのは難しい話です。

もくじ

01 今後の日程（事務局）	09 今後の山行計画
02 縦走路 「シカ問題を聞く」	10 行ってきました かわら版 会報部
03 運営委員会報告	11 山行報告 八幡平樹氷群
04 事務局から	13 山行報告 七時雨山
05 木村一さん計報	14 山行報告 稲庭岳
06 遺稿 妙義金鶏山・筆頭岩登攀	16 かわら版 海外通販のすすめ（2）
08 専門部報告 志向別グループから	17 交流の広場 櫻庭由季子

2018年度 第12回運営委員会報告

■出席者：18/22名 2019.3.13(水) 18:45～20:50 杜陵老人福祉センター

渡邊 三浦(明) 中村(美) 石澤 小田(嘉) 高橋(恵) 中村(数) 松田(幸) 千田 古川
山田(潔) 福山 小川 渡部 松田(希) 岡(義) 大森 大倉

【進行:三浦(明)、記録:中村(美)】

1 会長あいさつ

木村一さんの事故による訃報についてと、告別式に参列しての報告。

総会に向けた最後の運営委員会なので、よく協議して、共通認識を持てるようにしましょう。

2 報告事項・確認事項

(1)現在の組織状況(3月13日現在)

会員数 92名(男 47名/女 45名) 家族会員…5名 会友…6名 登山時報4月号 40部

退会者 NO,350 木村 一さん

(2)各専門部等の取組状況

- ① 山行管理委員会…ヒヤリハットの報告が1件あった(バテ)
- ② 会報部…木村さんから頂いている原稿について→協議事項へ
- ③ 自然保護部…ニホンジカの日撃情報は、今後も継続して知らせてほしい(詳細は別記)
- ④ 県連報告…3/3(日)県連総会に、代議員 10名出席ありがとうございました。

今まで長年会計をしていただいた津村さんが下りることになり、盛岡山友会から出すことになった。

3 その他報告事項

(1)木村一さんに弔電と供花を送り、会長が告別式に参列した。

(2)志向別グループ誕生…「四季の山」と「名山歩こうかい」が合体して、「四季の山」となった。

責任者はNo,70 遠藤千鈴子さん、グループとしての会装備保管はNo,250 日比野保子さんに。

4 協議・承認事項

(1)定期総会に向けて各部の総括と方針を検討…前回の運営委員会後の修正案について検討する。

会計報告と予算案について。活動計画案について。

(2)HPについて…会のHPが新しくなった。投稿しやすくなったが、利用方法を後日お知らせする。

(3)あかげらの専門部ページには、山行管理について管理委員会から。

(4)木村一さんから頂いている原稿について…●あかげら3月号に訃報と、事故の経緯、会としての対応を
会長が記事としてまとめる。その後に頂いていた「妙義山」の原稿を遺稿として載せる。

●あかげら3月号で、会員より木村さんへの思い出の原稿を募集して、4月号で追悼特集を組む。

1冊をご家族へ、また今回連絡を頂いたACCへも送付する。

(5)人事について…運営委員を下りる人、運営委員になってほしい人(推薦)など。

(6)4月の運営委員会を事情により4月9日(火)にしてほしい…OK

(7)3月例会のミニ講座…ネパールトレッキングの映写

2019年度 第1回運営委員会は 4月9日(火) 杜陵老人福祉センターです

例会の司会と後片づけ

担当月	担当部	担当月	担当部	担当月	担当部
4月/10月	教育遭対部	5月/11月	山行企画部	6月/12月	会報部
7月/1月	組織部	8月/2月	事務局	9月/3月	自然保護部

事務局から

☆ 会員動向 (3/16 現在)

会員数 92 名 (男 47 名/女 45 名) 登山時報 40 部 家族会員…5 名 会友…6 名
退会者 No. 350 木村 一さん (3/3 死亡)

☆ 労山基金について

労山基金の口数変更希望の方は、4 月初旬までに事務局に連絡ください。
連絡なく変更されると手続きが大変です。ご協力お願いします。

☆ 名簿修正のお願い

新しい名簿を作るために、記載事項に変更ある方は事務局にお知らせください。4 月例会まで。

☆ 定期総会のお知らせ

第 33 回定期総会の開催について【重要】

盛岡山友会の第 33 回定期総会を以下の通り開催します。前年の活動総括と新年度の活動方針等を決めるもので、出席は会員の義務です。万障繰り合わせて出席ください。
やむおえず欠席される方は 3 月 27 日までに委任状を事務局に提出してください。

記

日時：2019 年 4 月 3 日 (水) 18 : 45～

場所：盛岡市勤労福祉会館

議題：2018 年度活動総括及び決算、2019 年度活動方針及び予算案ほか

☆ 委任状様式 (例) (必ずしもこの様式にこだわりません)

盛岡山友会会長 様

第 33 回盛岡山友会定期総会委任状

私は、2019 年 4 月 3 日に開催する標記総会の議事、議案に関する一切の権限を議長に委任します。

2019 年 月 日

会員No. 氏名

◆当面の予定

4 月 3 日 (水) 第 33 回定期総会 (勤労福祉会館)	4 月 24 日 (水) 4 月例会 (勤労福祉会館)
4 月 9 日 (火) 第 1 回運営委員会 (杜陵老人福祉センター)	5 月 8 日 (水) 第 2 回運営委員会 (杜陵老人福祉センター)

本日の例会進行・会場担当は 自然保護部です
4 月の例会は 4 月 24 日 (水) 勤労福祉会館 です

【訃報】 会員の木村一さんが山で亡くなりました

3月3日、会員の木村一さんが谷川岳白毛門の下山中に滑落し亡くなりました。ご自身が代表を務めるACC-J茨城の新人山行で、新人2人を含む5人パーティのリーダーでした。場所は一般的な尾根ルートで、平年より積雪が少なく露岩帯となっていたため、新人には迂回ルートを下りるよう指示し、一人で露岩帯を下り滑落してしまいました。

目撃者がいないため滑落の原因は分かりませんが、技術的に難しい所ではなく、持病による体調不良も考えられるとのことでした。直接の死因は頭部裂傷による失血死で、ヘルメットをかぶっていなかったことが悔やまれます。

3月9日の告別式には、会から弔電を打つとともに、会を代表して渡邊が参列し、盛籠と香典を手向けて参りました。ご長男の岳志さんのあいさつで、「人と自然を愛した父」という涙を交えたくだりが、木村一さんの人となりを知る者には心に沁みるものでした。

木村一さんは2006年10月に入会され、岩手を離れても会員のままで、あかげらの山行報告にはいつも投稿をいただいていた。亡くなる直前にも原稿が届いたばかりで、今月号に遺稿として掲載させていただきます。

また、来月号には、追悼特集を組むことにしています。別途、会報部からご案内しますのでご協力をお願いします。

最後に、木村一さんのご冥福をお祈りいたします。(合掌)

【会報部より】 追悼特集の原稿を募集します

このたび、故木村一さんへの哀悼と感謝の意味を込め「あかげら4月号」で追悼特集をおこなうこととなりました。つきましては、木村一さんへの想いや印象に残る思い出を綴っていただきたく原稿を募集いたします。

原稿はA4半頁～4頁程度、写真などもございましたらご同封いただければと思います。お寄せいただいた追悼文は、あかげら4月号に掲載させていただきます。

皆様の貴重な思い出をお待ちしています。

締め切り 2019年4月6日(土) までに下記メールアドレスまたは住所へ送付ください。

◎メール原稿

会員No.301 久保 加世子 メールアドレス k-kubo@mba.nifty.ne.jp

◎手書き原稿(郵送)

会員No.357 渡部 彩子 〒020-0632 滝沢市牧野林 1047-66



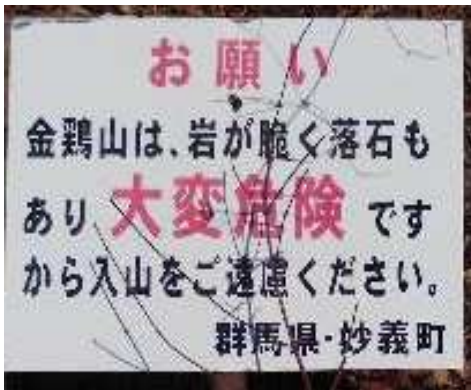
上州の藪山を彷徨する山旅（妙義金鶏山～筆頭岩登攀）

No.350 木村 一

2019年2月23日(土曜日) 天候：晴

メンバー：CL 木村 一 他 3 名(会員外)

金鶏山登山口(8:30)～金鶏山(11:30)～筆頭岩登攀開始(12:00)～登攀終了(15:00)



昨年の12月に表妙義の星穴岳に登った帰路、道路際に聳え立つ岩峰が気になっていたが登攀ルートがあると判ったので、今回はアプローチとして金鶏山を縦走してから岩峰(筆頭岩)に登攀することにした。

金鶏山の登山口には【金鶏山は岩が脆く、落石もあり大変危険ですから、入山をご遠慮ください】との立て看板がある。

階段が終わると落ち葉でふかふかの急登となり、更に登ると岩稜を急な岩溝(ルンゼ)の中を登るが、最初は傾斜も緩いが徐々に急角度になり、更に狭くなってきて幅50cm程の狭いトヨ状のガリー状の所を登るが、スタンス&ホールドが豊富なのでロープの必要性は感じない。

出口付近は【頬すり】と呼ばれ、狭いのでザックなど引っかけたバランスを崩さないように、高度感と展望を楽しみながら快適に登る事ができた。

更に雑木の樹林帯を登ると所々に岩峰が出てきて、藪岩クライミングをしながら進むが、ルートが判然としない場面が多々あり、沢登りやアルパインクライミングの経験が無いとルートファインディングが難しく感じる。我々も何回か進路を失い戻る場面が数回あったが、続く岩塊を登ると石碑が建つ金鶏山山頂に出た。

少し下ると斜度が45度はありそうな急峻なスラブが出現。



下部は更に崖となって落ち込んでいるのでロープを使用し安全にトラバースしたが、意外とホールドスタンスが豊富だったので余裕で越すことが出来た。更に主稜に戻るが相変わらず不明瞭な踏み跡が続き、縦走路の最後のピークに出た。金鶏山主稜も終わりに近づいたことを実感させる。





しかし、この岩稜を越すルートが発見できなかったため、落ち葉が積み重なった急斜面を滑りながら下降すると車道近くまで下降してしまった。

筆頭岩南稜は、日本アルプスの紹介者として著名なウェストンが北アへ向かう小手調べに、初登したという逸話が残っている由緒あるルートだ。

2パーティーに分かれてアンザイレンして登攀開始。

下部はザレてる部分もあるが快適に越し、更に南稜上部は妙義山塊では珍しく岩質もしっかりしているので、快適に高度を稼ぐ事ができる。途中両側がスパッと100mくらい切れ落ちて、幅が刃60cm程の【剣の刃渡り】を渡るが、高度感に恐怖を感じなければ快適に越す事ができる。その先が鎖のある核心部。岩稜が細いので空中に飛び出して攀じる感じがして気持ちが良い。筆頭岩山頂には大きなケルンがあり展望も良く、縦走してきた金鷄山の稜線や、眼下に国道が走り、目の前の金銅山の岩壁が大きく聳え立っている。筆頭山頂上からの下降は、南壁を2ピッチの懸垂で下降し、落ち葉の積もった急な斜面を滑るように下って車道に出た。帰路、近くの湯に浸かり、疲労を癒して茨城に帰った。



専門部報告

●山行管理委員会

■残雪期の留意点【重要】

3月3日に木村一さんが白毛門で滑落死されたことは、別途訃報としてお知らせしたところです。今年は、積雪が少なく尾根筋では雪と露岩がミックス状になっている場合があります。アイゼンは必携ですが、技術的に最も難しいと言われていいますので、慎重な判断と行動が求められます。なお、土踏まずだけの軽アイゼンは危険性を増すのでお勧めできません。

残雪期は、気温が低い朝方などは雪が固く凍り、比較的緩い斜面でも滑落すればなかなか止めることができません。そのような場所では、アイゼンとピッケルを携行し躊躇なく使用してください。合わせて、ヘルメットの着用も習慣化することが必要です。

低山、里山でも雪渓がある場所は事故のリスクが増します。雪庇などは、ブロック崩壊やブロック雪崩の危険があります。春の陽気に気を緩めることなく、危険と事故リスクのイメージを十分に膨らませて山に入るようにしてください。

志向別グループからの お知らせ

◆ 四季の山

代表 遠藤千鈴子

前回の集まりで、二つの志向別グループ（岩手の名山あるこうかい、四季の山）を一つにまとめることになり、名称を“四季の山”に決定しました。

今年度の計画 2019年5月～2019年10月

日程	山域	担当
5月26日（日）	秋田駒ヶ岳	工藤（敬）
6月16日（日）	早池峰山（小田越）	熊谷
7月20日（土）21日（日）	鳥海山	日比野
8月18日（日）	早池峰山（剣ヶ峰）	小田（嘉）
9月8日（日）	八甲田山（高田大岳）	加藤
9月23日（日）	三ツ石山	石澤
10月20日（日）	秋田駒ヶ岳 （八合目～孫六温泉）	佐々木（善）

次の集まりは9月6日（金）18時30分 杜陵老人福祉センター

今後の山行計画

※ 掲載の山行企画は全会員を対象としています。

実施日	山城・ルート (市町村)	企画	目的	難易度: 歩行/荷物/技術	締切日	打合場所	申込先
		問合せ	コメント		打合日時		
4月7日(日)	岩手山 馬返し (滝沢市)	グループ 銀世界	ロングコースを滑る	★★★/★/★★	4月1日	銀世界定例会 杜陵	080-3323-2367 松田希
		松田希	7合目から2合目付近まで旧道と新道の間の沢を滑りません。スキーを担いで登るところもあります。		4月4日(木) 18:30		
4月13日 (土)	焼石岳 (奥州市)	銀世界	残雪を滑る	★★★/★/★★	4月1日	銀世界定例会 杜陵	090-7560-3440 メール可 三浦良夫
		三浦良夫	ツブ沼付近から出発します。		4月4日(木) 定例会		
4月14日 (日)	万寿山 (花巻市)	ゆうゆう	春の花を観賞	★/★/★	4月20日	おでつて2F	080-6542-8871 433岡義博
		岡 義博	台温泉口から周回します。		4月8日(月) 18:00		
4月14日 (日)	万寿山/ 六郎山 (花巻市)	岩手の名山 歩こうかい	岩手で一番早い花を見に行きましょう。	★★/★/★	4月5日	おでつて2F	070-2829-2145 メール可 佐々木善男
		佐々木善男	オウレン、ミズウツを見ながら万寿山→六郎山と縦走します。		4月8日(月) 18:30		
4月20日 (土)	八幡平 (八幡平市)	グループ 銀世界	春の八幡平を滑る	★/★/★	4月1日	銀世界定例会 杜陵	090-1069-2333 三浦明夫
		三浦明夫	アスピーテライン開通後春スキーを楽しみましょう。		4月4日(火) 18:30		
4月25日 (木)	女助山 男助山 (雫石町)	ウィークデイ クラブ	平日山行を楽しむ	★/★/★	4月19日	おでつて2F	019-635-3203 (FAX可) 工藤敬子
		工藤敬子	春の里山・カップル山に行ってみませんか。		4月22日(月) 18:30		
4月27日 (土)~ 29日(月)	須川温泉 ~ 大薮山 ~ P1112 (一関市)	県境の風	秋田県との県境を歩く (7.5km(新区間 3.6km))最大250mのアップダウン	★★/★/★★	4月19日	例会時	080-1842-3586 SMSメール可 NO373 高橋陽子
		高橋陽子	国道342号線開通と同時に(翌日か)に須川温泉駐車場から2泊3日で残雪のコースを歩きます。希望により途中の大薮まで。(BC??) まだ道路開通・天気等流動するところもありますので、キャンセル可です		4月24日(水) 18:30		
5月2日(木) ~ 3日(金)	五葉山 赤坂コース (釜石市)	四季の山	新築の山小屋、石楠花山荘に泊まる	★★/★★/★★	4月19日	おでつて2F	080-6036-1387 メール可 加藤桂子
		加藤桂子	登山口にまきがありますので小屋まで持って行きます		4月22日(月) 18:30		
5月10日 (金)	白木峠 (羽後黒沢)	ゆうゆう	ユキツバキを眺める	★/★/★	4月20日	勤福例会前	090-4046-3599 252高橋恵美子
		高橋恵美子	無理をせずのんびりと新緑を満喫する。		4月24日(水) 18:20		
5月12日 (日)	鞍掛山 (滝沢市) 東根山 (紫波町)	山行企画部	今年度第1回会山行	★/★/★	4月20日	勤福例会時	090-8923-3120 古川孝 080-1842-3586 高橋陽子
		古川 孝 高橋陽子	春の息吹を感じ、仲間と一緒に歩きましょう。		4月24日(水) 例会		

あかげら4月号に掲載する山行計画は、書面、メールにて、山行企画部

No.234 古川 孝 090-8923-3120(ショートメール可) mountfuru2@yahoo.co.jp

までお願いします。締め切りは4月7日(日)です。

行ってきました!

[2月18日～3月15日現在]

No.	月日	山域	ルート	目的	参加者名	会員	分類
1	2月18日	大黒森 (八幡平)	旧八幡平スキー場～大黒森往復 (キャット利用)	トレーニング	L福山	1	個人
2	2月18日	鞍掛山	相ノ沢コース	トレーニング	L高橋(英)	1	個人
3	2月18日	八幡平	旧八幡平スキー場～蝦夷森～黒谷地～陵雲荘～頂上～茶臼小屋～旧八幡平スキー場	八幡平の樹氷を見る	L古川・S大峠	2	個人
4	2月21日	箱ヶ森	猪去～クロヒ経由コース	平日山行を楽しむ	L工藤(敏)・S中村(美)・日比野・級木・佐々木(善)	5	志向別G
5	2月23日	鞍掛山	相ノ沢～新道～岩鷲の滝(岩手山麓)往復	岩鷲(がんにゅ)の氷瀑を見る	L岡(義)・S高橋(恵)・太田代	3	個人
6	2月23日	八幡平	御所掛温泉～秋田八幡平スキー場～八幡平山頂往復	八幡平の樹氷原を歩く	高橋(英) ※自然公園財団八幡平支部ツアーに参加	1	公募(公的機関)
7	2月23日	八幡平	御在所トレイルP～恵比寿森～黒谷地～山頂往復	八幡平の樹氷を見る	L古川・S山田(潔)・村田	3	個人
8	2月24日	姫神山	城内口～姫神山～P939～城内口	1月に流れた名山の定例山行リベンジ	L小田(嘉)・S中村(数)・S加藤(桂)・中村(美)・石澤・工藤(敏)・日比野・熊谷(久)・北田・級木・高橋(陽)・小田(春)・佐々木(善)	13	志向別G
9	2月24日	七時雨山	繫沢集落～七時雨山南峰往復	銀世界初めての山に挑戦!	L松田(希)・S山田(潔)・古川・大峠・小原(耕)	5	志向別G
10	2月25日	鞍掛山	相ノ沢コース(右回り)	トレーニング	L岡(義)・S太田代・高橋(恵)	3	個人
11	2月26日	三ツ石山	網張スキー場～山頂往復	トレーニング	L福山	1	個人
12	3月2日	焼石岳(金明水小屋)	胆沢ダム管理事務所～中沼口～尿前川横断～金明水小屋往復	金明水小屋へのルート確認	L古川・S村田・山田(潔)	3	志向別G
13	3月2日	姫神山	城内口～冬限定コース(左回り)	再度冬限定コースを歩く	L小田(嘉)・小田(春)	2	個人
14	3月3日	稲庭岳	遠野牧野分岐～稲庭岳往復	稲庭岳を滑る	L武田(秀)・S大峠・山田(潔)・古川	4	志向別G
15	3月3日	姫神山	一本杉コース	トレーニング	L高橋(英)	1	個人
16	3月3日	八甲田・難岳	高原茶屋～難岳往復	初めての山を楽しむ	L松田(幸)・松田(希)・久保〔会員外〕1名	3	個人
17	3月3日	霞霧ヶ岳	瀧磯海岸	海拔0メートルから登る	L竹田(真)・S内堀・小原(耕)	3	個人
18	3月6日	東根山(928.4m)	ラ・フランスコース	雪を楽しむ	L岡(義)・S高橋(恵)・太田代	3	個人
19	3月9日	小松倉山	網張スキー場第二リフト～小松倉山下～奥産道～網張スキーセンター	小松倉山から奥産道へ滑る	L大峠・S村田・S三浦(良)・武田(秀)・山田(潔)・内堀・松田(希)・久保・松田(幸)	9	志向別G
20	3月10日	早池峰	アイオン沢ルート	スキーで早池峰山に登る	L古川・S舟越・S三浦(明)・村田・山田(潔)・大峠	6	志向別G
21	3月10日	姫神山	一本杉コース	冬を楽しむ	L岡(義)・S吉田(成)・高橋(恵)・小川(優)	4	志向別G
22	3月10日	穴目ヶ岳(安家)	広域基幹林道～左回りコース	登山道のない山を残り雪期に楽しむ	L中村(数)・S大倉・高橋(陽)・小田(嘉)・小田(春)	5	個人
23	3月10日	室根山	蟻塚公園～室根山往復	山頂から海を眺める	L千田(勝)・S加藤(桂)・熊谷(久)・日比野	4	志向別G

注:これは、あくまで速報的なものですので、掲載もれや誤り等がある場合はご容ください

かわら版

会報部員大募集!

皆様、山友会の専門部は移籍可能なのを御存知でしょうか?

違う活動をしてみたいな～、というときは、年度始めに現在在籍している部と、新たに移りたい部にその旨を伝えればOK!あとは事務局に名簿の訂正をお願いしましょう。もちろん、掛け持ちしてもいいですよ。

会報部は少ない人数で、コツコツ和気あいあいと活動しています。主にパソコンでの作業となりますので、自宅で活動できます。(内職の求人みたいですね…^-;))

興味のある方は、会報部員まで気軽にお尋ねください。

一緒に楽しい『あかげら』を作りましょう!

(会報部)

山行報告



八幡平樹氷群 (スキー山行)

(山域) 八幡平

(日時) 2月9日(土曜日)～2月10日(日)

(天候) 2月9日:曇り時々晴れ 2月10日曇り時々晴れ

(コース) 2月9日:秋田八幡平スキー場～大深温泉休憩所～八幡平山頂～陵雲荘
2月10日:陵雲荘～秋田八幡平スキー場

(参加者) CL:久保 SL:小原 山田潔・村田・内堀(報告)

(コースタイム)

2月9日:秋田八幡平スキー場 9:20～八幡平山頂 13:30～陵雲荘 14:00

2月10日:陵雲荘 8:00～秋田八幡平スキー場 11:10

(記録)

滝沢IC出口の駐車場で待合わせして、山田さん、小原さんの車で滝沢ICより鹿角八幡平ICまで一気に進む。今週は最大の寒波が来ていることで、秋田方面は雪化粧で盛岡に比べて雪は多い。秋田八幡平スキー場に到着して出発準備を行う。リフト券を購入してリフトに乗り込む。風はなく比較的穏やかである。薄曇りで天気は期待できない。リフト山頂から大深温泉方面へ向かうが、前日の雪でルートはなし。山田さんがラッセルして何とか休憩所まで辿り着く。ここで、シールを付けて出発するがルートが無いので、鹿角山岳会が付けている目印(リボン)を確認しながら進む。ここもやはりラッセルが続き順番に先頭が入れ替わり進んで行く。さすがに疲れが出てくる。途中、休憩をはさみ何とか八幡平山頂へ到着する。目印も確認出来る天候で初めて来る私にはラッキーである。冬以外は簡単に来られる場所もこの時期は中々人を寄せ付けない。山頂付近の樹氷はとても見事でモンスターになっている。この前の暖かい時期でも落ちなかったのであろう。写真を撮り終え陵雲荘に向かう、この時点ではまだ天気は良くない。少し進むと前に薄ぼんやりとした小屋が見え、陵雲荘とわかる。少し下り到着する。スキーを外して小屋に入る。寒いので、ストーブを付けようと思い、薪・新聞紙でつけてパチパチと音が鳴り、大丈夫と思いストーブの蓋を閉めるが、時間と共に勢いが無くなる。ハテナぜだろう。2回目も同様に何故かな? そのうち天候が良くなり、皆様外で、写真タイムとなってしまった。私はスキー靴も脱いでいて、サンダルで小屋の周りから青空と樹氷群を撮りまくる。何時の間にか青空が見えたのであろう。天気が良ければ写真も上手く撮れる。などと思いながら部屋に戻り、ストーブに火を起こさないか、と思う。小原さんが多分、灰が沢山残り酸欠状態になっていると分析して、灰を調べると大量の灰が出てきた。前の人が掃除していなかったようである。灰を取り除くと一気に火が起き、部屋はどんどん暖かくなる。それでは、夕食の準備である。今回私が食当であり、食事の準備を進める。自家製のピクルスから始まり、筍煮、ポトフ、ポテトサラダと続く、小原さんもアヒージョを作って頂いた。ようやく食事が終わった。酒も進み小屋で音楽を聴きながらひと時を過ごす。まったりした時間帯であった。食事も終わり就寝につく。翌朝、山田さん、小原さんが早く起きてストーブに火を起こしていた。朝食後は出発準備と部屋の片づけを行い、小屋に別れを告げる。昨日同様、天候はあまり良くない。シールを付出発する。途中、晴れ間が見え、八幡平の樹氷群が私達に最後の微笑みを、何枚か写真に収めた。束の間の青空であった。下りは何時もの如く、皆様に迷惑を掛けながらカメのようにゆっくり降りて行き、最後は急斜面で私のみシールを付けてゆっくり下った。最後にもう一度シールを付けて、リフト山頂からゆっくりゲレンデを下って行った。レストハウス到着後から天候が崩れ、雪が降り天候が悪くなっていった。レストハウスにて大盛りラーメンを食べて、満腹からくる思考能力ゼロ状態に陥った。盛岡方面は雪も少なく秋田との風景の違いを感じた。また、今年最大の寒波が

来ていたが、風が無かったようで、寒さはそれほど感じられなかった。ラッキーであった。三ツ石山に続き八幡平もある程度青空が見えたことは、幸運であった。次はこんな簡単でないと思いきを引き締め頑張りたいと思うこのごろであった。



—以上—



七時雨山

№.294 松田 希

日程：2019年2月24日（日）

メンバー：CL松田希、SL山田潔、古川、大峠、小原

行程：滝沢IC発6:40→繋沢駐車場所発7:40→七時雨南峰11:05～35→繋沢駐車場所着12:50

滝沢IC着13:40

階上のノースロックというクライミングジムがお気に入りです。年に数回行っている。その休憩室にあった“東北の山スキールート100”という本に七時雨山が紹介されていた。夏に登ったことはあるが、樹林帯の中の登山道を歩いたイメージなのでどこを滑るのだろう…と不思議に思ったが気になった。銀世界の定例会で話してみると、潔さんも気になっていたとのことで計画することになった。

調べてみると、七時雨山荘の方から登るのではなく、安代からアクセスして繋沢集落の冬季通行止めのゲートから入ることがわかった。竜が森から安代までの冬道は運転者の負担となると思い、今回は高速利用で計画した。当初CLの予定だった松田幸が風邪で参加できなくなり、私がCLを代行することとなる。

当日の天気は晴れ。繋沢集落を出発すると50分程は車道歩き。冬季通行止めのゲートを過ぎて少しの間は、車より若干狭い幅くらいで圧雪となっていたのが不思議だった。途中目指す七時雨山のきれいな双耳峰が見えた。七時雨山の上に飛行機雲が何度も現れては消えていた。春から札幌に引っ越し小原さんは、今度は雲の上からこの山を眺めることになるのだろうか。

車道から徒歩道に入ると雪が少ないせいか段差のようになっていたり、棘のある木があったりで歩きづらい。途中林道と交差してどちらに進むか迷ったりもしたが、天候が良い日の初めての山のルートファインディング程楽しいものはない。地図で確認しながら進んで行くと予定通り牧野に出た。ちょうどよい斜度の真っ白な牧野にシュプールを描いて滑ることにメンバー一同心躍っているようだ。

最後は急登の樹林帯となるのは予想していたが、これがなかなかであった。しかも樹間が広くない。帰りの滑りが心配だったが、雪質は悪くないので皆黙々と登る。南峰に着くと360度のパノラマ。岩手山、安比スキー場、八甲田の山々、姫神山、早池峰山…。最高の眺めを見ながら昼食とする。

南峰から樹林帯をぬける850m付近まではシールをつけたまま慎重に滑る（というよりは下りる）。牧野に出たところでシールを外し、思い思いにシュプールを描く。天然のゲレンデは気持ちが良い。マイナーではあるが“東北の山スキールート100”に入るだけはあるのかもしれないと思った。

林道に出るとスノーモービルとすれ違う。車道が圧雪となっていたのはスノーモービルの跡だったのだ。スノーモービル跡は良く滑るので、林道・車道を快適に滑ることができた。山頂から1時間10分のあつという間ではあったが、樹林帯のシール滑降、牧野、林道、車道と様々な斜面を、シールを再びつけることなく楽しく滑ることができた。天候とメンバーに恵まれ、銀世界初挑戦の七時雨山計画は大成功となった。





稲庭岳スキー

No305 山田 潔

日程：2019年3月3日（日）晴

メンバー：CL武田・SL大峠・古川・山田

コースタイム：滝沢 IC 7:00——8:10 稲庭高原展望台 8:20——9:50 稲庭岳山頂 10:10——
10:40 稲庭岳展望台 11:00——11:15 天台の湯 12:15——13:15 滝沢 IC

7:00 滝沢 IC から高速に乗り浄法寺に向かう。途中先週滑った七時雨山が車窓から見えた。浄法寺



ICで降りて、天台の湯の方向に向かう。どこまで除雪しているだろうか、と話をしているうちに、天台の湯の表示を見失い青森県田子町方面に車が走ると、どんどん稲庭岳が遠くなり、おかしいと気づく。5分ほど戻り、天台の湯を見つけ一安心。周りは1m程雪の壁が出来ており、小山田豆腐店に到着。おばあさんはまだ健在で駐車をお願いする。しかし、通行止めの看板は容易に外すことができ、除雪された道は山に向かっている。岩誦坊（ガンショウボウ）の湧水を汲みに行く人の為に

通ってもいいようにしているんじゃないか？と一時通行止めを解除して車で進む。湧水を過ぎても除雪道路が続き、稲庭高原の展望台まで来てしまった。眼前に広がる牧野、先週登った七時雨山、岩手山、見晴らしがいい。稲庭岳山頂はすぐそこに見えた。

8:20 広い牧野を稲庭岳山頂を目指して歩き始めた。広々とした牧野歩きは気持ちがいい。間もなくダケカンバの明るい林に入る。山頂は見えなくなるが



300度にコンパスを合わせ木立の間隔が広い林を歩く。傾斜はゆるく、のんびり歩いて汗は掻かない。林を抜け、標高900m位に登ったところでピンクテープを発見、夏道と合流したようだ。視界が開け岩手山、七時雨山が見えた。ゆっくり右に巻きに尾根を歩きながら山頂に着いた。

9:50 国土地理院が設置した立派な二等三角点「稲庭岳」が輝いていた。北側を見ると八甲田山が真っ白く峰を連ねており、岩木山も見えた。西には森吉

山が端正な姿を見せていた。南には安比スキー場のゲレンデが手の指を広げたように白いすじを描いていた。先週滑った七時雨山の牧野が白く見えた。素晴らしい眺めで、お昼としたいところだったが、時間が速すぎたのでお昼は風呂に入ってからということとなった。しばらく景観を楽しんだのち、シールを外して滑降する。岩手山を見ながら南向きに滑る。大パノラマを前に滑るのは気持ちが良い。途中、八戸山水会の単独女性が登ってきた。豆腐屋さんに車を置いてきたという。自分が来たときは車がなかったもので、我々がどこから登ってきたか不思議だったようだ。通行止



め一時解除の話をする、とても悔しがっていた。その後も快適なツリーランを楽しみながら、林を抜け牧野に出た。雪質は春の雪となっており、やや重かったが楽しく滑って、展望台の駐車地点に戻った。その後、1m程の雪の壁の林道を下り天台の湯に入浴¥500。サウナにも入ると途端におなかやすいて、食事をしながら反省会をした。

「やっぱり、天気に恵まれたことと、車で展望台まで行けたので、かなり楽な楽しいスキー登山だった。」



2011年5月に山歩きをしている方が持っておられたGPSナビが欲しくなりガーミン450の英語版を日本の代理店経由で購入し日本語化して使っていましたが、2016年4月に電源ボタンのラバー被覆が破れ防水が効かなくなる事態が発生、これについてはネットなどで調べて何とか自分で対処が出来ましたが、2017年頃から液晶のバックライトが切れてしまったようで、明るいところではなんとか画面が見えますが、暗いところでは良く見えなくなっていました。

この不具合は私の手には負えないため新しいモデルの購入も考えましたが、昔同様にガーミンのモデルを日本で購入すると高く、色々ネット調べていると専用機(ガーミン)でなくスマホで十分との書き込みも多くてスマホの購入に切り替えました。

ただ、通話やSMSは今まで通りの「ガラ携」で行いたいために「ヤフオク」で中古のスマホを探しましたが、下記の条件に当てはまる中古だと1.5~2.5万円はするため、装着されているバッテリーの寿命が心配なため新しいモデルを中国から調達することにしました。

調達条件：SIMフリー、防水、GPS(アメリカの衛星測位システム)+グロース(ロシアの衛星測位システム)
※二つのシステムを受信できると測位精度が上がる。

ネット上で「中華スマホ、防水」で検索すると日本の方が中華スマホの評価を行っているページも見つかり、その中で紹介されていた「uleFone」という会社の商品を調べていると、今年の春に発表した商品があるとのことで、その商品名「Armor X」で検索すると何社かの中国の通販会社がヒットし、その中で良さそうな(あくまでも、ウェブページを見ての印象ですが)「Banggood」に発注を掛けました。

価格は送料込みで133ドル、日本円での支払いはいは1.5万円で最新のモデルのスマホを入手することが出来ました。また、関税等の追加支払いもありませんでした。

ただ、発注時点(5月5日) Banggoodへのメーカーから納入待ちで、実際の発送は6月1日となりましたが、なぜかこのスマホは地球一周近くして(香港→ベルギー→日本)で送られてきて、最終的に私の手元に届いたのは4週間後の6月29日だったことも併せて記載しておきます。

性能的には

- ・衛星測位システム：◎
- ・電池容量：◎(5500mAh)
- ・重量：○(256g) ガーミンも240gと重い
- ・防水：◎(水深1.2m OK)
- ・画面サイズ：◎(124×62mm) ガーミンは65×40mm

使用ナビ・アプリは小田さん紹介の「ジオグラフィカ」でなく「OruxMaps」を使用、このアプリについては別途紹介します。



交流の広場

白鳥舞う真冬の高松の池で

冬山はおろかスキーにすら行かなくなって久しい。そんな鈍った体と心がシャキとなる仕事をした。

某テレビ局のニュース番組の中で『冬密着』と題したコーナーを担当した。真冬日だった2月1日、日の出から日没まで高松公園(盛岡市)での撮影だった。定点でインタビューしながら1日を観察する企画。どんな人に出会えるか、どんな話を聞けるか声を掛けてみないとわからない取材だ。

午前6時半、まだ薄暗いうちから池の周囲を様々な人たちが行き交う。マイナス5度の小雪が舞うなか、黙々と歩く人々。早朝の緊迫感と朝の冷え込みのせい、何か張りつめた空気。聞けば健康のために歩いている人が多い。一方出勤や登校光景も。



雪と氷に覆われた高松の池をじっと見つめる男性がいた。お目当ては…? 「ハクチョウの飛び立ち。だいたい7時半ぐらいから飛び立つんで…たぶん日が出てくれれば飛ぶ。」

冬の間、週3回はハクチョウの撮影に来ているという。日が射し始めた7時半、「コォー、コォーツ」。水面を走るように勢いをつけ、次々と飛び立った。カメラマンさんたちは寒さもなんのその、渾身の一枚を狙ってシャッターを切り続けていた。

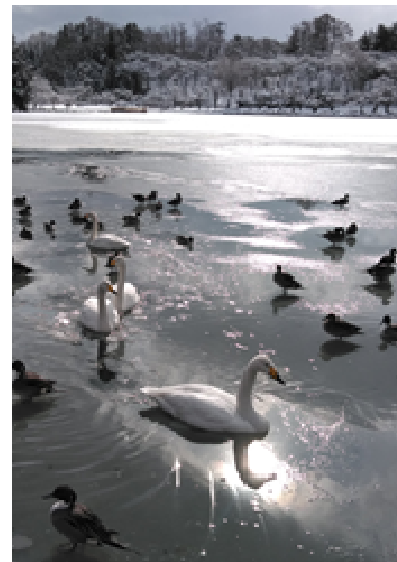
池を1周できる遊歩道はおよそ1.4km。自宅を出発して1周歩いて帰る近所の人たちがたくさんいる。ストックを手に、凍った雪の上をしっかりとした足取りで歩く70歳の男性は、1周を1時間ぐらいかける。「私は脳梗塞になったんですよ10年前に。」特に冬は運動不足になるため、毎日歩くそう。病気克服には「体を甘やかさない」気

力と体力が必要なようだ。

公園事務所のスタッフ5~6名がサクラの木の剪定作業をしていた。「今の時期、枯れ枝と不要な枝の剪定をしています。4月半ばまで。」と言う。『日本さくらの名所100選』に選ばれている高松公園。春に咲き誇るサクラを楽しめるのも、厳冬期の地道な手入れのおかげだということを知り。散歩の人が切られた枝を手に持っていた。持ち帰って活かしておく3月ごろサクラが咲くそう。私も一束の枝をいただいた。

この日の最高気温は氷点下1.5度。日暮れまで老若男女訪れる人々は絶えることがなかった。凍てつく寒さの中で顔と手足を冷たくしてウロウロした1日は、冬山の感覚を思い出した。思えば雪の山から下山して街に戻った自分は、山に入る前とは違う人間になった気がしたものだ。真冬の高松の池でたくさんの人たちと出会い、話し、わが身を省みて日常をリセットできた。

ハクチョウたちはすでに北へ向かった。部屋の花瓶には少しだけふくらんだサクラのつぼみ。まだ冬の寒さを閉じ込めて春を待っている。(No.474 櫻庭由季子)



■□ 表紙の言葉 □■

— 「花の季節」 —

今年も間もなく冬が終えようとしています。
気温は平年並み、雪は少なく、穏やかな日が多か
った気がします。
そんな時なので、花の絵を持ちだしました。
冬の間 花を見ることが少ないので名前を忘れそ
うです。
花の季節に向け思い出そうと花の本をながめ、今
年はあの山のあの花を見に行こうとか、思いを巡
らすときでもあります。
今年もみんなで楽しい山登りをしましょう。

No. 382 三浦 明夫

あかげら 第364号

2019年3月27日

発行者 盛岡山友会 会長 渡邊健治

編集責任者 盛岡山友会 会報部長 渡部彩子

印刷／製本 (有)小松茂印刷所

盛岡市大沢川原2-5-37

019-623-6073

■□盛岡山友会のホームページ□■

http://www.geocities.jp/morioka_sanyukai/
～里山からヒマラヤまで安く、楽しく、安全に!～